屋上通気管ベントキャップ

Rハット

取扱説明書

（改訂版：2009.07.10）

～Rハットを安全にお使い頂く為に～

- Rハットを破損させたり落下させたりしますと、人が怪我をする虞が有ります。使用上の注意を守り、正しくお使い頂けるようお願いいたします。

- 本製品は、屋上通気管用のベントキャップです。
  他の用途には使用しないで下さい。

- 本製品を使用する前に、ひび割れや破損等の有無を目視にて御確認下さい。万が一、ひび割れや破損等が確認された場合は、その製品は使用しないでください。

- 通気用VP管に取り付ける際、必ず専用の取付金物を使用してください。

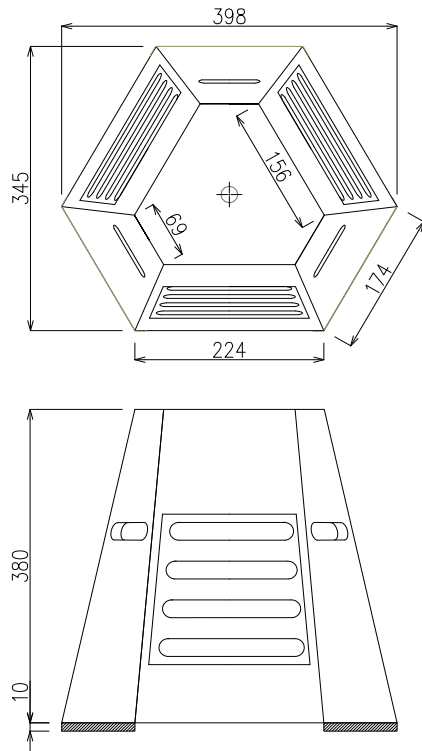
- 本製品を施工前に保管時する場合は、直に土や砂利の上に置かないで下さい。敷きゴムの損傷・剥がれの原因となります。

- 施工時及び施工場所への移動の際、躯体壁や階段、手摺等にぶつけたり、引きずらないよう注意して下さい。本製品の損傷の原因となります。

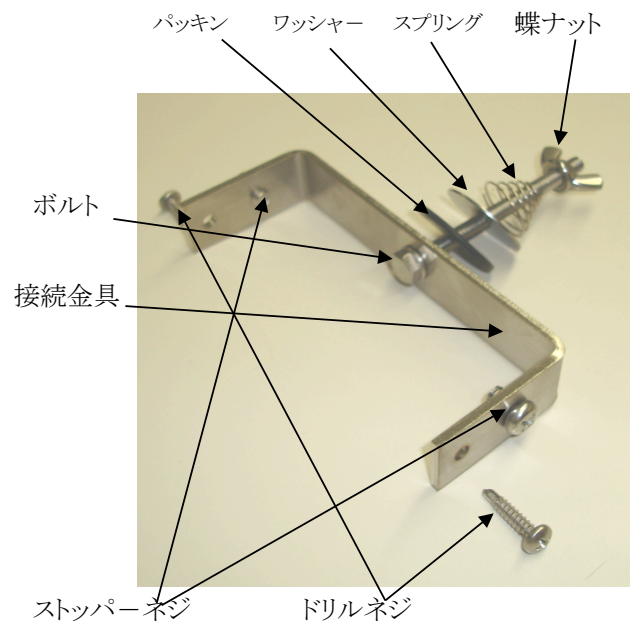
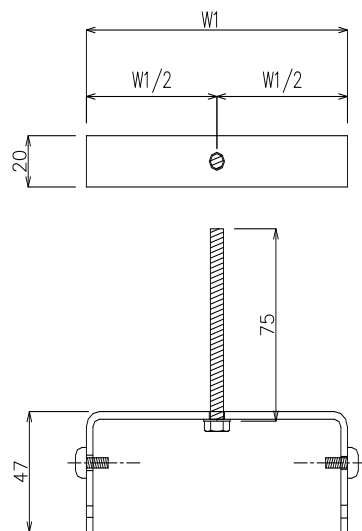
- 通気用VP管に取り付ける際、蝶ナットを締めすぎないようにして下さい。
  また、経年変化により蝶ナットやスプリングが緩む事も有りますが問題は有りません。
  取付金具は、万が一の地震等に対し本製品がずれることを防止する為のものであり、強く締めつける必要はありません。

- 本製品の施工前に、トップコートの養生日数を最低1日確保し、トップコートが硬化していることを確認してください。
  硬化前に施工した場合、敷きゴムがトップコートに付着する原因となります。

製品概要

●Rハット本体 （製品重量:約11kg）

Rハット本体概略図

Rハット（屋上タイプ）

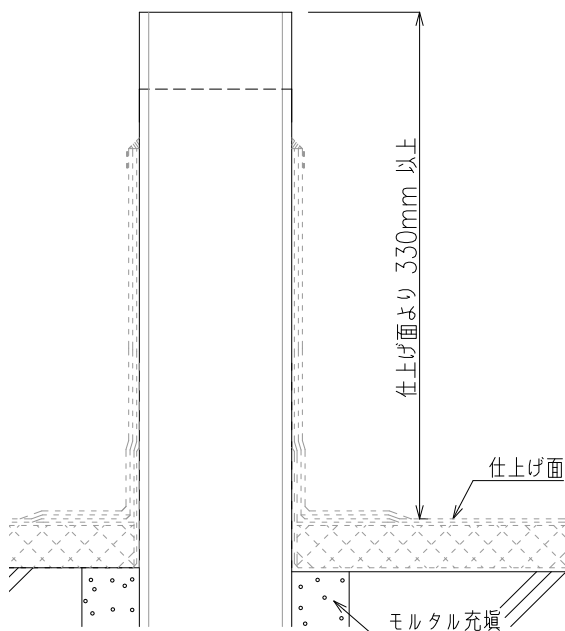
●Rハット取付金物

VP 管 径 対 応 金 具 サ イ ズ 表			
VP管内径（φ）	75	100	125
W1(mm)	95	120	146

標準施工手順

①. VP管の固定

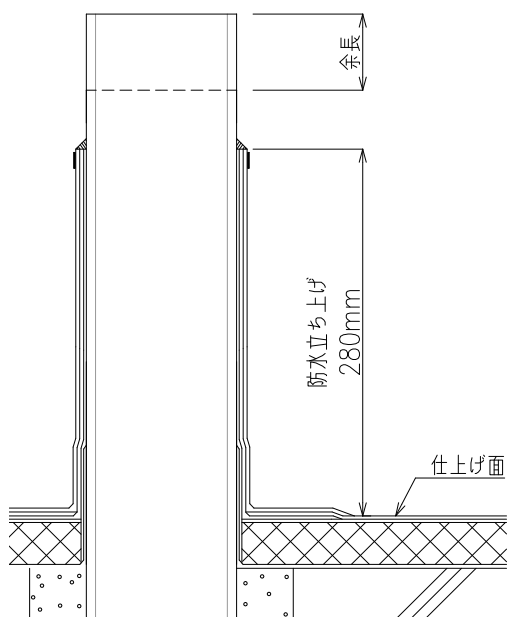
スラブのスリーブにモルタルを充填してVP管を固定します。

この際、VP管の高さを仕上げ面より330mm以上にして下さい。

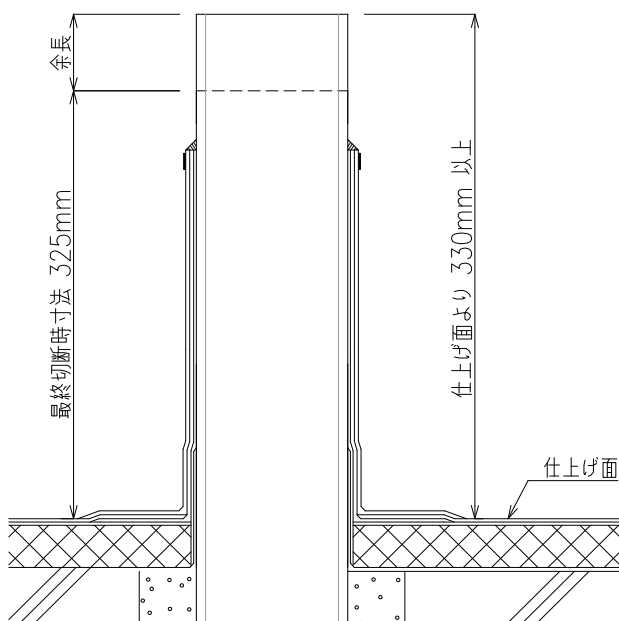
また、開口面の養生にガムテープ等を使用する際、アスファルト防水する部分にはガムテープを貼らないで下さい。

②. VP管へのアスファルト防水

仕上げ面より280mmの位置に、アスファルト防水の上端の位置をマーキングします。

VP管の下部際は、網状ルーフィングにて補強して下さい。

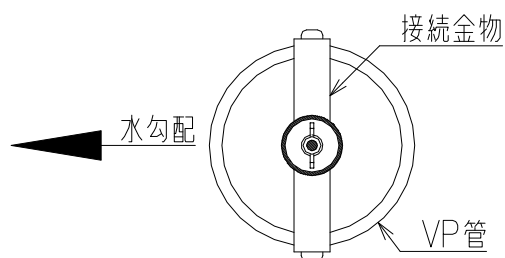
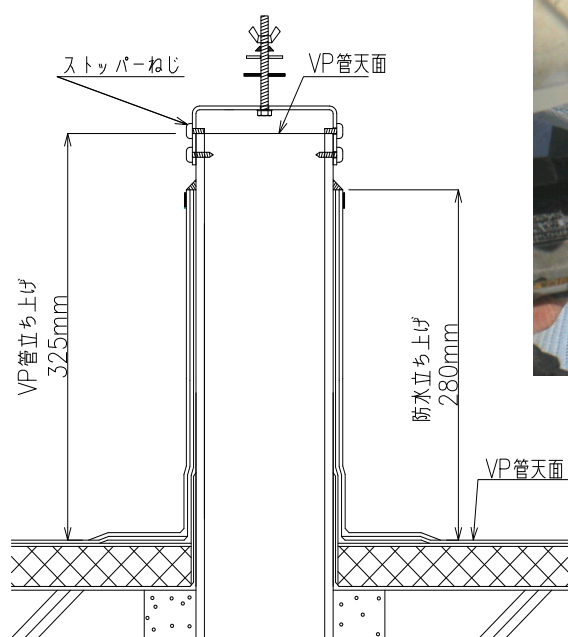
端部の仕舞いは、SUS製のバンドにて締め付けて下さい。

③. VP管の切断

VP管の余分な長さを、仕上げ面より325mmの位置で手ノコを用いて水平に切断します。

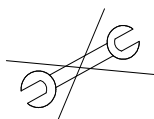
この際、切断には切り口がガタガタになる為、ディスクグラインダは使用しないでください。

④. 接続金具のVP管への取付

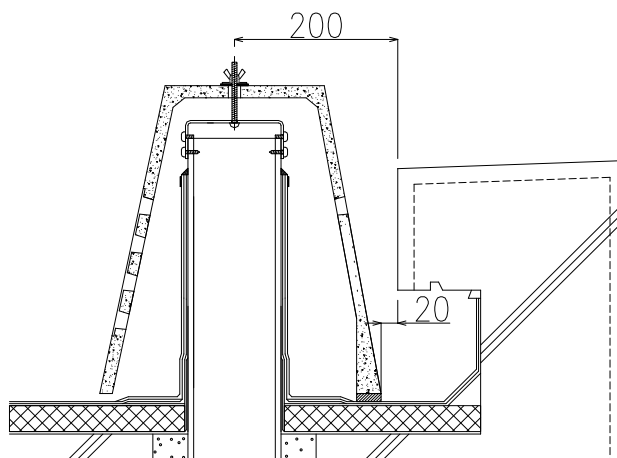
取 付 方 向 ：接続金具を水勾配に合わせ、接続金具が傾けられるよう屋上の水勾配と直角になるよう設置します。

取 付 高 さ ：接続金具のストッパーネジがVP管の端部に当るまで下げます。

接 続 施 工 ：付属のドリルネジをネジ穴に通し、VP管に電気ドライバーで接続します。

⑤. Rハット本体の取付

ストッパーの開放：ストッパーネジを緩めるか、取り外します。
（プレートが傾けられ、ボールテストにも対応可）
ボルトを傾けて、ボルトからワッシャー等を取り外します。（VP管の中に落とさない為）

本体の設置：Rハット本体天面の穴に接続金具のボルトが通るよう、VP管にかぶせます。
パッキン、ワッシャー、スプリングをボルトに通し、スプリングの底面がワッシャーに軽く当たる程度まで締めた後、蝶ナットの底面がスプリングに軽く当たる程度まで締めます。
この際、蝶ナットを締め過ぎない様注意して下さい。
（蝶ナットをスパナ等で締め付けないでください。取付金物は、万が一の地震時等のズレを防止するための物であり通常は自重だけで動くことはありません）

⑥. パラペット付近への設置：

アゴ先からVP管の芯までの距離を
原則200mm以上としてください。

⑦. 仕様表

No	名称		仕様・材質
1	本体	Rハット(本体)	GRC製 約11kg,仕上(塗装)アクリルウレタン塗装(N-65)
2		敷きゴム	合成ゴム製 t=10 片面粘着層付
3	取付金物	接続金物	FB20x3 SUS304(曲・穴加工)
4		ボルト	M6x75 SUS304
5		蝶ナット	M6用 SUS304
6		スプリング	SUS304
7		ワッシャー	30φx6.5φx1t SUS304
8		パッキン	30φx7φx2t 合成ゴム製
9		ストッパーねじ	M6x10 ストッパー用 SUS305
10		ドリルねじ	φ4x19 タッピングビス SUS304
11		ワッシャー	M6用スプリングワッシャー SUS304